

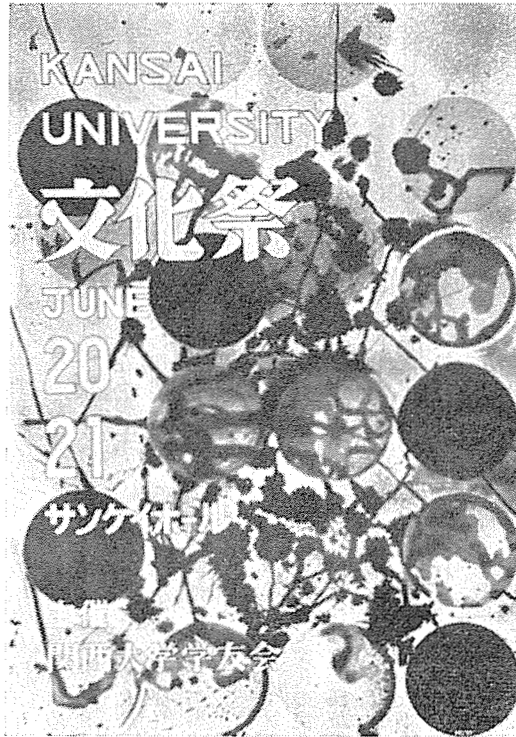
THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, July 30th, 1959, No. 329.

關西大學學報

昭和34年7月 第329号

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十四年七月三十日発行(毎月一回三十日発行)
通卷三二九号



文化祭ポスター

關西大學出版部

Area Studies と総合研究

合 田 熊 平

経済政治研究所事務長

戦後京都大学において、対島を対象として大がかりな地域研究が行われ、又本学においても島根大学と協同して隠岐の島の総合研究が行われたのであるが、このような Area Studies (地域研究) は第二次世界大戦以来、特にアメリカ合衆国において盛んになって来たのであつて、もともと戦略・策戦やら占領地司政のために、交戦地域の諸事情を知悉するための軍事上の要請に因るものであり、戦時中から多くの大学に地域研究の講座・研究所が設けられて、それぞれの地域の言語習得と民族文化の考察に極めて良好の成績を上げて来た。ミシガン大学に日本研究所 (Center for Japanese Studies) の開設せられていたことは既に承知の通りで、戦後その支所が岡山大学内に設置せられていたのである。しかし、戦後といえどもこの地域研究はますます隆盛となり、従来の専門分化せられた学問自体の反省として、又新しい学問的方法論として、即ち、有機的総合的研究方法として、重要視せられることとなつたのである。

把握すべきことを強調せんとするものである、従来の学問が、その進歩するに従い次第に専門分化して、縦に深く掘り下げられ、全く孤立分散の形となつているので、地域研究はこれらを経て横に継りを持ち、相互に血の通うものとし、一つの神経系統のもとに、一体としてこれを把握せんとするものである。これまで、われわれは余りにも孤立的に、相互の学問的連絡を持たずに研究し教育せられて来た。即ち、近代学問の欠陥がここに在るのであつて、そのために、民族の文化及び社会の把握も有機的総合的な知識となり得ないのである。地域研究はこの弊に対し、民族文化を一体として考察し、生きた知識としてこれを獲得せんと意図するものである。

地域研究は総合研究の典型的形態であり、学問というよりは、むしろ、研究方法として利用せられているものであつて、地域研究は従来の如き専門化し、あまりにも分科した研究方法を改めて、これを総合的に研究せんとするものであり、学問における一般性にもとづく知識の獲得を目的とするもので、そこに新しい学問的方法論として、大学の課程のうちに取上げられ、隆盛になつて来た所以があるのである。即ち、地域研究は地域の特質を人文・社会・自然科学等多くの専門家実際家が集つて、あらゆる立場・角度から、しかも密接な協力の許に、相互連関において研究するものであつて、そこに専門学科の総合が自然に達成せられ、これが一体として全的に把握せられ、その民族の日常生活・風習から、その民族感情までも味得する処まで理解を深めんとするものである。かくて、地域研究は

総合研究として典型的な、最も規模の大きい、有機的に最も妙味のある研究方式であると考へられる。

地域研究の本質を極めて明確に解明せるものとして、即ち、地域を理解するためには、地域を總体的に把握しなければならぬことを米国のパウアーズ教授 (David F. Bowers) は次のように言つておられるので、ここにそのまま掲記して、その決定版として参考に供したい。

「人類文化はそもそもダイナミックな複合体である。それはあらゆる事象が入りこみ交流しているところの、個人的・社会的・歴史的な形成物の集積である。それ故に人類文化を理解するには、一つの形成物を孤立的事実として発見するのではなく、より大きな連関の一部分として考察するでなければ、真の意味はつかめないであろう。高い地域研究の期するところは、こうした知識のいわば断片主義に對して、全体的な理解を通じて文化の完全な姿をつかみ、真実な知識を得んとするものにはかならない。かくしてこそ、一つの地域への完全な接近が可能となる。そして過去の学問の陥つた知識の空隙はなくなり、全体的な知識が獲得される。」

大学の教師は日頃研究室にて、その専門とする科学の理論的研究に没頭しておられるのであるが、社会科学研究所の研究員として調査研究に従事せられるとき、或は社会事象の実証的研究を行わんとするとき、複雑多岐極まりなき社会諸現象を対象とするがために、いきおい、隣接諸科学と共同或は有機的総合研究を行うことが必要となり、そうすることによつてより効果的な調査研究が遂げられるのである。従つて研究所における調査研究は、実証的研究が主となり、共同或は総合研究を行うことがその建前となるのである

「文化果つる島」に文化を拾う

トカラ諸島及び種子島、屋久島探検

探 検 部

トカラ学生調査隊

リーダー	竹本靖秀	(四年)
副リーダー	渡辺吉和	(四年)
"	吉田寿夫	(三年)
"	近藤嘉彦	(二年)
市大側	宮崎 浩	(三年)
"	林 勝也	(三年)
"	桑原利夫	(三年)

昨年十一月、三十一名の部員を以つて発足した探検部は今春四月一日より三週間、産経新聞社・大阪新聞社の援助で「文化果つる島」として知られているトカラ諸島及び種子島・屋久島の生活文化・風俗を調査する為、学生調査隊を派遣した。そして多大なる成果を収め屋久島隊は十八日、トカラ隊は二十四日に貴重な資料を持ち帰校した。尚、トカラ隊のみ大阪市立大学探検部との合同隊であった。



クリ舟 (中之島)

大阪市立大学探検部合同の基に、学生ばかりとして初めて、四月十日より四月二十四日まで調査を行つて来た。トカラ諸島は北緯三〇度と二九度線上に浮ぶ島々で海は青々と南国特有の色をしており、丁度北斗七星を裏より見た感じの島々である。今回は特別の都合により宝島、中之島、諏訪の瀬島を中心に巡つた。これ等の各島には鹿児島港より十島丸(二五〇トン)の定期船が月に一、二回巡行するだけであり、島民の文化開化は船に頼るだけである。港湾設備がなく汽笛で丸木船が迎えに来る、言葉に於ては祖先の平氏が落ち伸び余生を送つたためか関西言葉に近く、九州地方の言葉に比られば、吾々に良く理解出来るのであるが「カ」が「クワン」と成り関西大学がクワン、サイ、大学と発音される次第である。各島は外見、絶壁の岩肌が現われているが上陸すれば熱帯植物のバナナ、アダン、テンベイが覆い繁げり島によつては温泉が沸き、産物として黒

る。共同・総合研究には地域研究の場合と同様、学外に在る熱心な研究者・実務家等に協力参加を得ることは極めてよい結果を得られるものであつて、校友諸君等にも協力員としてその参加は望ましいことである。文部省の科学研究費交付金は総合研究・機関研究・各個研究の三部に分れて研究費を交付されているが、その総合研究の解説には「総合研究は、相当多数の研究者が、それぞれ専門的な立場から共同して、緊密な連絡を保ちつつ有機的に行う比較的大規模な研究であつて、総合研究の組織によつてはじめて成果が期待されるようなものである。研究組織は、多くの大学・研究所に所属する研究者によつて構成される場合が多いけれども、一つの大学で数箇の学部の研究者が共同する場合でもよい……」と、有機的総合研究者であること、地域研究と研究方式には何等変るところはなく、かつて本学で実施した隠岐の島の地域研究も、この総合研究として研究費の交付を受けたのであつた。今後社会科学界の傾向として、専門分化した従来の研究方法に對し、学問自体の反省として、又その反動として隣接諸科学との共同研究、有機的総合研究或は地域研究の如き研究方法がますます盛んになるのではあるまいか。

糖から、いも(さつまいも)海の幸には五・六・七カ月の三カ月に飛魚、サワラの魚が取れ島民は、半農半漁と言つた所である。中之島を除いては医院及び売店が一軒もないしまつであり、教育に至つては離島のためか全校(小・中学校)を合せて、各島生徒数三〇名が普通である。彼等は卒業と同時に職を求めて都会に出て来るのであるが残念ながら島に残っているのは老人と子供ばかりと言つても過言でないであろう。

台風には全島、大いに悩まされており毎年三、四回通過しており、予報は面白い事に警察部長の役目の一

(7頁下段に続く)

学 内 報

昭和三十四年度

私立大学理科特別助成補助金

交付内定

「私立大学理科特別助成補助金取扱要領」(昭和三十三年六月一八日文部大臣決裁)に基き、文部省より本年度本学に左記補助金を交付されることに内定した。

補助予定額 二九、二五〇千円

内訳↓

- 機械工学科 七、六〇〇千円
- 電気工学科 七、七一〇千円
- 化学工学科 六、九五〇千円
- 金属工学科 六、九九〇千円

なお、昨年度に比べて総額で金二三五〇千円増となっている。

昭和三十四年度

文部省科学研究費交付

昭和三十四年度文部省科学研究費交付金(各欄研究)は、審査の結果、本学では飯田(文学部)、杉原(経済学部)、河野(商学部)各教授が受領することになった。

なお、研究テーマは左記の通り。

- 大阪俳諧史の研究 飯田正一
- イギリスの中期急進派の経済思想 杉原四郎
- J.S.ミルを中心として—
- 国際労働機構(ILO)の最低賃金制の科学的分析及び現代各国最低賃金制の実情とその問題点の分析 河野 稔

昭和三十四年度

関西大学教職課程夏期学期実施

本学では、毎年夏期休暇を利用して、文部大臣認可による教職員免許法認定講習会を開いているが、本年も七月一日(水)より八月七日(金)まで六週間天六学舎で開講される。なお、開講科目及び担任講師その他は左記の通りである。

種別	科 目	単 位	担 任 者
一般教育科目	日 本 国 憲 法	2	中 谷 敬 寿 (教 授)
専門科目 専攻に関する	教 育 原 理	4	鈴 木 祥 蔵 (教 授) ・ 本 庄 良 邦 (助 教 授)
	教 科 教 育 法	4	寛 田 知 義 (助 教 授) ・ 西 村 亮 一 (学 大 助 教 授)
	教 育 心 理 学 (発達・青年を含む)	4	前 田 嘉 明 (阪大助教授) ・ 辻 岡 川 延 勇 (助 教 授) 蜂 屋 明 慶 (市大助教授)
専門科目 専攻に関する	日 本 史 概 説	2	横 田 健 一 (教 授) ・ 有 阪 隆 道 (助 教 授)
	人 文 地 理 学 概 説 (地誌を含む)	2	宇 田 米 夫 (専任講師)
	哲 学 概 論	4	藤 本 是 (教 授) ・ 田 中 熙 (教 授)

天野敬太郎図書館長渡欧

図書館図書課長天野敬太郎氏は国際図書館協会連盟(International Federation Library Associations)主催により来る七月二十日より同二十五日までロンドン大英博物館に於いて開催の国際図書目録会議(Working Group on Co-ordination of Cataloguing Principles)の予備会議に日本図書館協会より日本代表として派遣されることになり、七月十六日午後七時三十分発エール・フランス機にて羽田よりロンドンに出発し、ロンドンに於ける会議終了後欧州各国の図書館事情を調査視察して八月十四日帰国の予定。

故漁澄彦五郎先生追悼の会

前大学院部長文学博士魚澄彦五郎氏の追悼会が去る七月二日午後二時より千里山第三学舎講堂で行われた。

白川理事長の挨拶、山崎学長事務代行の追悼の辞に続いて、石浜純太郎、西田直二郎、梅原末治等各氏の追悼談後、「魚澄先生古稀記念国史学論叢」を霊前に捧呈した。

海外の大学より

ハーヴァード・ロー・レビュー

続いて寄贈される

「ハーヴァード・ロー・レビュー」の

左記巻号が、この程ハーヴァード大学法学部図書館より、前号報告分に続いて寄贈されて来た。

HARVARD LAW REVIEW, Vol.

72, Nos. 2, 4, 5, & 7.

B I M 機関誌寄贈

イギリスの経営協会(British Institute of Management)より左記機関誌が寄贈された。

The Manager, The Journal of the British Institute of Management, Vol. 27, Nos. 3 (March), 4 (April), 5 (May), and 6 (June), 1959.

カリフォルニア大学より

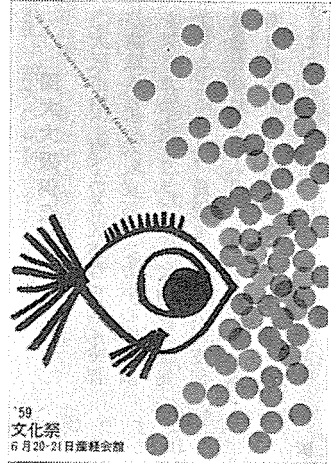
図 書 寄 贈

本学と図書交換を行っているカリフォルニア大学図書館より、この程左記図書が寄贈して来た。

Leroy R. Shaw, Witness of Deceit, Gerhart Hauptmann as Critic of Society (University of California Publications in Modern Philology, Volume 50), 1958.

Doris Goodrich Adams, Iraq's People and Resources (University of California Publications in Economics, Volume 18), 1958.

Karl S. Guthke & Hans M. Wolf, Das Leid im Werke Gerhart Hauptmanns (University of California Publications in Modern Philology, Volume 49), 1958.



文化祭

第十二回文化祭が去る六月二十(七)、二十一(八)日の両日産経会館で盛大に行われた。文化祭は関西大学校友会の三大年中行事の一つである。「我々は文化祭を単なる伝統として受継ぐに止らずしてより一層高度な、新しく創造された伝統としてこの祭典を次代へと引継がねばならない」(島田文化会本部長) 意気込みで準備されただけに、今回は新しい多数の企画の下に充実したプログラム内容が披露され、両日共多数の来賓、観聴衆を集めて成果を挙げた。

第一日目(二十日)は、午前九時から映画(映研)に始まり、ユネスコ研究部の講演、能楽部の「船弁慶」などの連吟や仕舞、邦楽部の「鶯娘」等、続いて白川理事長、長柄校友会副会長、山崎学長事務代行、校友会委員長等の挨拶、更に吟詩部の吟詠、放送研究会の「華々しき青春の饗宴」で午前の部を終り、午後は応援

団吹奏楽部の「詩人と農夫」等、グリーククラブの男声合唱、軽音楽部ではスウィグ、デクシイランドウエスタン、ハワイアン等に分れて多彩な軽音楽が時代の流れて大向うを鳴らし、交響楽団は「エグモント序曲」等古典を演奏し、学団座の「三人の盗賊」で第一日目を終了。

第二日目(二十一日)は、殆んど前日と同じプログラムで進行され、唯午前部に茶道部の薄茶風炉平点前が加えられ、午後の部で演劇と交響楽とが順次を入れかえ最後に校友会副委員長の閉会の辞で、二日間に亘つた文化祭を閉幕した。

芦の葉文化祭

二部文化会主催の第四回芦の葉文化祭は六月二十日(七)午後五時三十分より天六学舎第三十六教室において盛大に催された。

開会と共に、軽音楽部の演奏、映画部のミュージカル映画「南太平洋」紹介、リターダー・クランソンの混声合唱、吟詠部の詩吟あつて、小野学生部長、石井後援会長の挨拶後、再び民謡部の日本民謡、古典演劇研究部の日本舞踊、邦楽部の尺八演奏等と続いて、学窓座の劇「寒鴨」が悼尾を飾つて、多彩な番組を終了した。

学研夏季公開講座

二部学術研究部で毎年夏期休暇に行う学研夏季公開講座は本年第三回を数えて、七月六日より同十八日迄十二日間左記講師で講座を開催した。

七月六〜七
中国人民公社と第二次五ヶ年計画 市大 儀我壮一郎
近代化をはばむもの 関大 横田健一

十〜十一
裁判の超党派性 関大 毛利与一

十三〜十四
戦後日本文学の動向と三島由紀夫 関大 風巻景次郎

十五〜十六
現代青年のモラル 立命 細野武男

十七〜十八
日本国憲法と安保条約 市大 黒田了一

夏期経営大講座開催

経営経済研究部では、日本経済新聞社の後援を得て例年行う第十回夏期経営講座の講習を学生及び一般の人々の為、天六学舎に於て、午後六時より八時迄左記の講師によつて行い、高評のうちに全講座を終つた。

監査論	神戸外大 教員 近沢弘治
商法	関大講師 神大教授 国才胤臣
財務諸表論	神戸商大 教員 阪本安一
経営学	関大講師 東大助教授 降旗武彦
原価計算	阪大教授 木内佳市
会計学	関大教授 植野郁太

春季関西六大学リーグ戦 硬式野球部

春季の関西六大学リーグ戦は、去る四月十一日大阪日生球場における本学対京大一回戦で開幕され、五月二十六日関大三回戦をもつて終了したが、本学は緒戦対京大一、二回戦では夫々12-0、14-0で大勝し率先よかつたが、対同大、対立命大、対神大、対関学戦では、攻防善戦の空しく勝負を奪い合い、遂に六勝第四位に終つた。

戦績左の通り

△本学対京大	(一回戦) 12-0	△本学対同大	(一回戦) 2-3
(二回戦) 14-0	(二回戦) 0-2	(二回戦) 0-2	(二回戦) 0-2
△本学対立命大	(一回戦) 4-1	△本学対関学	(一回戦) 0-2
(二回戦) 1-3	(二回戦) 4-0	(二回戦) 4-0	(三回戦) 0-2
(三回戦) 0-3	(三回戦) 0-2	(三回戦) 0-2	
△本学対神大	(一回戦) 3-0		
(二回戦) 0-1			
(三回戦) 7-1			

七種目に優勝

陸上部

大阪陸上競技選手権大会は去る六月二十、二十一両日大阪市立運動場で開かれたが、陸上部は終始善戦して七種目に優勝した。

戦績左の通り。

▽二百メートル	①小島哲 22秒1
▽中障走	①宮武勇 55秒8
▽ヤリ投	①大原正義 75メートル 97
▽百メートル	①鈴木 10秒9
▽四百メートル	①八島 50秒5
▽高障走	①上田 16秒0
▽四百メートルリレー	①関大 43秒6



校 友 友
校 友 パツジ

校友会の動き

六月

- 七日 関大大阪倶楽部総会
- 十日 組織部—学友会利益代表懇談会
- 十三日 近畿支部長会
- 十三日 大阪国税局支部総会
- 十五日 常議員会
- 十五日 会館建設委員会
- 十八日 事業部会
- 二十三日 広報部会
- 二十四日 北支部発会式
- 二十六日 祥久会
- 二十七日 伊丹支部総会
- 二十八日 昭八会
- 三十日 組織部会

関大大阪倶楽部総会

大阪市内、府下の各区市郡別に支部が組織され、大阪支部はその中心的役割を果したため、クラブとして新しく発足することになり、最後をかざる大阪支部総会をかねて、六月七日午後三時から箕面観光ホテルで開かれた。

この日は七十名にのぼる出席者があつて盛会をきわめ、まず中務支部長のあい

さつではじまり、会計報告後、クラブに組織変更するための会則改正の件を協議のすえ承認した。

新組織にともなう役員選出は、七氏の選考委員で審議のすえ、中務平吉氏を初代理事長に選出した。また副理事長に榎本、梅原、小寺の三氏を、監事に下条、中谷の両氏をそれぞれ選出した。

久井専務理事、大月校友会長から祝辞、懇親会に移り歓談ののち午後六時半、学歌斉唱して散会した。

組織部—学友会利益代表懇談会

組織部では六月十日千里山第一学舎で学友会利益代表と懇談会を開いた。

この会合は在学生に広く校友会の現況や活動状態を知らせて、その認識と理解を得るために開かれたもので、大学から小野学生部長も出席した。

はじめに榎本副会長、門上組織部長が現況、組織をくわしく説明。ついで榎本副会長を議長に懇談会にはいり、各代表者から、学生と校友会とのつながりを密接にするためPRの必要性を強調したり、各支部内における学生会結成を促進することを希望したりする意見が多く、これからもこの種懇談会を随時開くことを決めて散会。

近畿支部長会

校友会では組織部が中心になつて六月十三日午後二時から千里山第三学舎第一



近畿支部長会に出席の各支部長

会議室で近畿支部長会を開催。

これは近畿五十支部に対して召集されたもので四十一支部が参加。大学から来賓として白川理事長、久井専務理事、矢野常務監事、矢口経済学部長、山崎商学部長が出席、寺西組織副部長の司会により始められ、米資あいさつにつづき、門上組織部長の校友会現況説明があつた。

ひきつづいて榎本副会長を座長に懇談会に移り、各支部長がくわしく現況を報告。席上、校友会ならびに支部運営について意見や希望がでて、最後に榎本副会長から応答ならびに運営方針の説明があ

つた。議事を終つて夕食を共にしながら懇談を続けて閉会した。

常議員会

校友会では六月十五日午後六時から三十五名の出席を得て常議員会を開催。この日の第一議題はさきに監事によつて監査を受けた昭和三十三年度校友会収支決算の報告、承認であつた。寒川総務部長の開会につづき、西村財務部長が決算につき逐条説明、質疑応答があつて満場拍手で承認した。

ついで組織部から担当事業報告があり午後七時に閉会した。

会館建設委員会

校友会側の第一回会館建設委員会が六月十五日午後七時五分から常議員会にひきつづいて開かれた。

席上各委員から用地問題、建築規模、維持の問題などについて種々の意見がでたが、創立八十周年の記念事業として今から進めてゆくべきだという意見が強かつた。しかしこの問題は大学の長期財政計画とてらして検討しなければならず、結局この会合は結論に至らず、でた数々の意見を大学側に反映さしていくことを決めた。

事業部会

事業部では六月十八日午後六時から事業方針を検討するために部会を開催。

席上、就職対策の検討、PRとしての講演会や吹奏楽演奏会の企画等が検討された。

北支部発会式

大阪北区の校友で北支部を結成する動きが以前からあり、準備が進められていたが、それも整ったので六月二十四日午後五時から北区役所講堂で多数の来賓を迎え、盛大に発会式が行われた。

この日の出席者は五十名にのぼり、宮崎氏の司会で始められ小寺氏があいさつ、つづいて発起人を代表して長柄氏から設立経過が報告された。

大学評議員会議長の阿部氏が議長になつて議事に入り、会則案を逐条説明、満場一致で可決承認した。新役員選出については五名の委員で選考することになり、協議のうえ長柄金吾氏を支部長に選出した。

久井専務理事、矢野常務監事、阿部評議員会議長、神宅理事、大月校友会長、榎本同副会長ら来賓からあいさつや母校、校友会の現況説明があつて後会員の自己紹介を経て懇親宴を開き、学歌斉唱をもつて午後九時閉会した。

祥久会

祥久会では六月二十六日夕刻から大阪梅田・ミュンヘンで総会を開催。

この日は会員約五十名が出席、盛会を

きわめ、一同久しぶりの会合になつた。く話合つた。また、今母校で問題になっている高速道路学内貫通問題にも言及、会としても絶対反対の態度を明らかにした。

伊丹支部総会

伊丹支部ではさる六月二十七日午後五時半から総会を開いた。

この総会はさきに伊丹市会議員に当選した倉橋、戸田、千葉三氏の祝賀とこのほど住友銀行伊丹支店長に着任の森川氏の歓迎をかねて市内、山の上・シスターグレルで開いたもの。

会員二十五氏が出席してなごやかに懇談、各氏の当選、来任を祝い、母校の発展を祈つて午後八時半閉会した。

昭八会

昭八会では六月二十八日午前十一時から千里山大学ホールで二十五周年記念総会を開いた。

この日は二十五周年を記念して恩師・岩崎、河村信一、河村宣介、木村、堀、正井、水谷、矢口、山田各氏を迎え、会員家族も交えて盛大に開かれた。

記念撮影ののち恩師の懐旧談、久井専務理事の大学現況説明、校友会代表榎本副会長のあいさつがあり、恩師を囲み歓談した。

一同は懇親の尺食をともにしたあと学

舎をくまなく見学、午後四時に閉会した。

組織部会

組織部では六月三十日午後六時から部会を開催。

(3頁より)
つである。トカラ列島に三名の警察官が駐在するだけでまづたく犯罪と言う名のつくものは一件もなく法律相談員と言つた所で伝説に蓋された、神秘的な静かな平和な島々であつた。

屋久島隊

- リーダー 山本 義孝(四年)
- サブ サツ 油野 義之介(四年)
- 隊員 安田 広志、榊井 昭夫、山本 重之(四年)

薩南諸島々屋久島々

この屋久島はほぼ中心にある宮乃浦岳一九三五米を頂点として河川は高峰より放射状に発し雄大な原始林で覆われ海岸線に沿つて道路が通じており、東から安房、宮乃浦、一湊の諸港があり、その行政的中心地である宮乃浦を中心にして約四〇分の所にある一湊部落、さらに宮乃浦から少し南に下り

席上、校友会に卒業時入会欲奨の問題について話合うことについて協議し、あわせて、七月二十五日姫路市で学術講演会を開くことについて具体策を検討した。

楠川という部落から標高七五〇米の小杉谷の頂上に望んだがその雄大さと言う迄もなくコケの生い茂つた屋久杉に覆われ屋久島はその面積の九割を山林で占めている。その上屋久と下屋久の中心に当る守房でこの計画に終止符を打つた。



種子島家先祖の墓 (種子島)

關西大學法制史学会
關西大學經濟學會經濟史研究室 共編

大阪周辺の村落史料

第四輯 五人組帳
フランス綴頭入 一八三頁
四〇〇円

五人組帳の研究は既に多く試みられているが、同じ地方のものをまとめ、同じ地方にあつても年代によつて異なることの研究にまで及んでいない。収録のものは大阪周辺の五人組帳のみをまとめた特色あるものとした。

第一輯 庄屋留書 既刊

第二輯 耕肥、拜借銀、頼母子 既刊

第三輯 證文集、村役人 既刊

刊行 關西大學
刊行取扱 關西大學出版部

なお、既刊各輯は貴重稀覯文献の活字版として各方面の注目を受け、古書市販価格が頒布価格の約二倍となつている現状です。在庫数も残り少なくなつていきますから御入用の方は直接当部へ御注文下さい。

關西大學出版部

昭和二十六年十月十五日第三種郵便物認可
昭和三十四年七月三十日発行(毎月一回三十日発行)
關西大學學報 第三二九号 七月号

關西大学法学会編

關西大学法學論集 第八卷

昭和三十四年三月刊 A5判 一一〇頁

内容

- 圧力団体の政治集団性……………上林良一
- 当事者の変更……………高島義郎
- 消極的構成要件要素の理論
—その理論史的研究—……………中義勝
- 判例研究……………沢井裕
- 弁済を許害行為であると認めたる
判断違法とされた事例……………本浪章市
- 非住所管轄権の不承認
—外国国際私法判例の紹介と研究—……………(元)

關西大学商学会編

關西大学商學論集 第四卷

昭和三十四年四月刊 A5判 七七頁

内容

- 減価償却の意義とその計算方法……………植野郁太
- 生動物の死亡と海上保険……………亀井利明
- 米國工業における産業循環の変型とその構造
—成長率分析の試み—……………瀨尾英己子
- 資料紹介—
- M・エノ・ディ・M・ピエ・E・ロッシイ……………寺尾晃詳
- 「フランスとイタリーの国有化」……………

大阪市大淀区長柄中通二丁目
印刷所
株式会社 ナニワ印刷所
電話(35)七二七一

編集兼 久井忠雄 発行所 關西大學出版部
發行入 電話(35)二〇七二番
振替 大阪二六七二二番